

ツキノワグマによる人身事故防止総合対策事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	榊 厚生	
事業主体	県・市町等				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R3 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	- 年度
事業実施方法	補助金											
補助率	1/3											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [4 安心を高める(地域力)] 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]					関連する県の計画等		[鳥獣保護管理事業計画 福井県第一種特定鳥獣保護計画(ツキノワグマ)]				
[解決すべき問題・課題] 山際集落の過疎化や高齢化、生活様式の変化に伴う里山での人間活動の低下により、人里に近い山林が藪化し、ツキノワグマが生息しやすい環境が形成されている。そのような中、山の実りが不作の年には、ツキノワグマが餌を求めて人里に出没しやすい状況となっている。						[問題・課題を表す客観的データ] R2(山の実り不作年) 県内のクマ出没件数 1,199件 人身被害状況 12件(12人)						
[事業目的] 近年過疎化や高齢化により里山が荒廃し、里山に定着するツキノワグマが増加することにより、人の生活とクマの生息地が近くなりつつある。クマの適切な管理と人身被害防止を図るため、情報提供、狩猟者育成、誘引物除去等の総合的な対策を行う。												
[事業内容] ○ツキノワグマ対策指導者の派遣 市町職員や地域住民に対し、ツキノワグマの人身事故防止対策(柿もぎや緩衝帯整備、捕獲)に必要な情報の助言等を行う者を派遣する。 ・集落内へのツキノワグマの出没時に、現地に赴き、ツキノワグマの出没要因やその除去等の対策について助言する。 ・ツキノワグマによる人身事故が発生した時に、現地に赴きその発生要因を明らかにするとともに、再発防止に向けた助言を行う。 ・平素から、誘引物となる樹木の伐採など、クマの出没に強い地域づくりへの助言を行う。 ○誘引物除去対策補助金 人の生活圏にある管理されずに放置されたままの果樹(柿や栗)等は、ツキノワグマを引き寄せ人身事故の原因となるため、ツキノワグマを誘引する可能性のある樹木の伐採に係る経費を補助する。(事業費の1/3以内、上限50千円) ○ツキノワグマ対策普及啓発 リーフレット等を作成し、第一種特定鳥獣保護計画を踏まえたクマ対策、くくりわなによる錯誤捕獲防止を普及する。												
[受益者] 県民						[想定される受益者数]						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況	毎年、ツキノワグマの行動が活発になり始める春と、冬眠前の行動に注意が必要になる秋に、市町職員、県関係機関、県猟友会等の関係者と「ツキノワグマ出没対策連絡会」を開催し、ツキノワグマの出没傾向等の情報共有と連携強化を図っている。					他県の状況	○富山県 9,000千円 生息調査 2,000千円 堅果類豊凶調査 2,000千円 市町村への補助金(パトロール、銃購入) 5,000千円 ○石川県 5,000千円 県民向けのフォーラム開催 400千円 市町・捕獲隊向け対策マニュアル作成 4,400千円 事務費 200千円					

ツキノワグマによる人身事故防止総合対策事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	柘 厚生	
事業主体	県・市町等				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業開始年度	R3 年度	事業終了 予定年度 (見直し年度)	- 年度
事業実施方法	補助金									R3 年度		
補助率	1/3									経過年数 2 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	2,347			(繰入) 2,347	0	自然保護基金						
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	令和4年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移	-	-	-	3,268	2,347	・ 誘引物除去対策補助金の見込減						
2月現計予算額の推移	-	-	-	1,436								
決算額の推移	-	-	-									
前年度までの主な増減理由												
[成果指標等の推移]												
区 分	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	誘引樹木の伐採 (目標)	-	-	-	(100)	(100)	(100)	(100)	補助対象件数100件			
	実績	-	-	-	未確定							
活動指標	ツキノワグマ対策指導者の派遣 (目標)	-	-	-	(10)	(10)	(10)	(10)	指導者の派遣回数10回			
	実績	-	-	-	3							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和4年度の変更点				事業評価				
令和3年度はクマの大量出没がなかったため、誘引樹木の伐採や指導者の派遣について要望が少なく実績が目標を下回った。				堅果類の豊凶の状況により、今後も大量出没が起こる可能性があることから引き続き対策を継続する必要がある。誘引樹木の伐採については、3年度の実績や市町の要望を踏まえ、補助の上限額を引き上げて実施する。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	921	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

コウノトリ飼育事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	榊 厚生			
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H22 年度 経過年数 13 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度			
事業実施方法	直営														
補助率	—														
福井県長期ビジョン における位置付け	分 野 [4 安心を高める(地域力)] 政 策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]				関連する県の計画等		[環境基本計画]								
[解決すべき問題・課題] ・飼育している「ふっくん・さっちゃん」の実の子(オス)は、兄弟(メス)が産卵するまで放鳥できない。 ・野外コウノトリが将来にわたり安定的に繁殖するためには、餌となる動物の生息場所の状況などの確認が必要であり、それまでは飼育の継続が必要。						[問題・課題を表す客観的データ] 野外コウノトリの繁殖が今後とも安定的に上手くいく確証がなく、当面飼育を継続することをお勧めする、という専門家の意見。									
[事業目的] 自然再生のシンボルであるコウノトリを越前市白山地区で引き続き飼育する。															
[事業内容] (1) コウノトリ飼育 兵庫県立コウノトリの郷公園から借受けたつがいのコウノトリについて、越前市白山地区において飼育を継続する。 外部委託による専任飼育員による継続的な飼育を行い、効果的に飼育を行う。 (2) 放鳥個体の追跡の実施 平成27年から平成30年に放鳥したコウノトリに装着したGPS発信機を用いて、飛来位置を追跡する。 (3) コウノトリ定着推進会議の開催 コウノトリ定着推進会議を開催し、コウノトリの野外定着に向けた対策検討や放鳥後の生態調査を報告・検証する。															
[受益者] 県民						[想定される受益者数]									
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)								
市町との連携状況	野外コウノトリが定着・繁殖できるよう越前市においては、ビオトープ整備など餌場環境の整備と地域住民への普及啓発に努め、県が主体で行っている飼育・繁殖事業については、越前市の職員を配置することにより、市と協同して事業を推進している。					他県の状況									

コウノトリ飼育事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	榊 厚生	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H22 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R4 年度
事業実施方法	直営									H22 年度 経過年数		
補助率	-									13 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他		一般財源	国庫、その他財源の名称等					
予算額	10,981			(繰入)	10,981	0	自然保護基金					
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区分		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	令和4年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		24,309	13,825	12,307	12,109	10,981	・GPS等の削減					
2月現計予算額の推移		16,284	11,935	11,634	11,351							
決算額の推移		13,833	10,397	9,641								
前年度までの主な増減理由		<ul style="list-style-type: none"> ・H27～ 県職員が行ってきた飼育を外部委託による飼育に変更 産卵期以降の見守り体制を強化するため、警備員を配置 ・H29～H30 水鳥が飛来する地域を対象として、ビオトープを整備 										
[成果指標等の推移]												
区分		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	県内で生まれたヒナの野外放出数	(目標) (3)	(3)	(2)	(2)	(2)			県内で生まれたヒナが野外へ飛び立つ数 (H27～H30は飼育ペアから生まれたヒナを野外放鳥、R01からは野外ペアから生まれたヒナが巣立ち)			
		実績 3	4	4	7							
活動指標	ビオトープ等設置個所数	(目標) (2)	(2)	(2)	(2)	(2)			巣塔またはビオトープの設置数			
		実績 3	2	2	2							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和4年度の変更点				事業評価				
ビオトープを2か所設置したことから活動目標は達成した。 越前市、小浜市で3ペアのコウノトリから7羽のヒナが巣立ちしたこと から成果指標は達成できた。								<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	1,128	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

三方五湖・北潟湖自然再生事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	榊 厚生			
事業主体		三方五湖自然再生協議会、北潟湖の自然再生に関する協議会			事務 区 分	■ 自治事務	事業 区 分	□ 実行予算 □ 補助金 ■ その他	事業 開始 年度	H31 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度			
事業実施方法	負担金														
補助率	1/4														
福井県長期ビジョン における位置付け	分 野	[4 安心を高める(地域力)]			関連する県の計画等		[環境基本計画]								
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]									
協議会への参加者の高齢化と固定化、協議会事業における産業(なりわい)に結び付いた自然再生の推進						<small>フナ・コイ等の水産資源の漁獲量は減少(平成25年に約18t→令和2年は約2.3t)しており、美浜・若狭町で三方五湖で捕れた魚介類を提供する飲食店数は8店舗で少ない。三方五湖におけるエコツアー(有料)は6回でさらに拡大させることが地域活性化に求められる。 三方五湖協議会の主メンバーである漁協組合員の数も高齢化で減少(H25:105人→R2:91人) 北潟湖でも地域のすぐれた自然等を内外にアピールできるエコツアーはほとんど実施されていない状況</small>									
<p>[事業目的] 三方五湖では「三方五湖自然再生協議会(平成23年5月設立)」、北潟湖では「北潟湖自然再生協議会(平成30年11月設立)」において、地元市町と地域住民、農漁業者、研究者および県、市町が協働して地域に即した自然再生を行い生物多様性の保全を行うとともに、保全活動の成果や地域の自然の魅力を全国にアピールしていく。</p> <p>[事業内容] ○三方五湖自然再生事業実施計画に基づき三方五湖の自然の保全、再生、活用を行う ①負担金対象者 三方五湖自然再生協議会 ②負担金額 2,000千円 (事業総額 8,000千円(国1/2、県1/4、若狭町1/8、美浜町1/8)) ③活動内容 三方五湖自然再生協議会全体会の開催 自然護岸再生、外来種対策、濁水防止のための普及啓発、水田養魚による地元産のフナ・コイの増殖、子どもラムサール(環境教育)、エコツアーの推進等</p> <p>○あわら市、農漁業者、地域住民、大学研究者が共働して北潟湖の自然の保全、再生、活用を行う ①負担金対象者 北潟湖の自然再生に関する協議会 ②負担金額 1,000千円 (事業総額 4,000千円(国1/2、県1/4、あわら市1/4)) ③活動内容 北潟湖自然再生協議会の開催、北潟湖自然再生実施計画の作成 水質改善、外来種駆除と希少な水棲昆虫の保全、小学生を対象とした環境学習の推進、地域資源を活用したエコツアーの推進等</p>															
[受益者] 三方五湖周辺の住民、北潟湖周辺の住民						[想定される受益者数]									
前事業の有無・実績		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 三方五湖・北潟湖生物生息環境再生事業 (実績) <small>[三方五湖] ・法定協議会「自然再生協議会」の設立(H23.5) ・自然再生フォーラムや観察会等の開催、カヤ田の保全、ヒシ刈り等の実施(H25~H27) ・ヒシの管理指針の作成(H27) ・水田養魚のマニュアルの作成(H27) [北潟湖] ・北潟湖の自然再生に関する協議会」の設立(H25) ・水田魚道の設置、魚類の育成効果を検証、地域の子供対象の魚観察会(H25~H27)、フォーラム・エクスカージョンの開催(H27)</small>				関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)							
市町との連携状況		三方五湖自然再生協議会では、若狭町と美浜町が県とともに事務局を担い、負担金を拠出している。 北潟湖の自然再生に関する協議会では、あわら市が事務局を担い、県とともに負担金を拠出している。				他県の状況									

三方五湖・北潟湖自然再生事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	榊 厚生		
事業主体	三方五湖自然再生協議会、北潟湖の自然再生に関する協議会				事務 区分	■ 自治事務		事業 区分	<input type="checkbox"/> 実行予算	事業 開始 年度	H31 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法	負担金					□ 法定受託事務			<input type="checkbox"/> 補助金				
補助率	1/4								<input checked="" type="checkbox"/> その他				
区分	事業費	国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等					
予算額	3,000			(繰入) 3,000		0		自然保護基金					
[予算額の推移等]												(単位：千円)	
区 分		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	令和4年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移		4,000	3,000	3,000	3,000	3,000							
2月現計予算額の推移		4,000	3,000	3,000	3,000								
決算額の推移		4,000	3,000	3,000									
前年度までの 主な増減理由	・平成30年度は、北潟湖自然再生協議会（自然再生推進法に基づく協議会）の設立と全体構想の作成のための経費を計上												
[成果指標等の推移]													
区 分		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	協議会の開催	(目標) (3)	(3)	(3)	(3)	(3)			三方五湖自然再生協議会全体会の開催（1回/年） 北潟湖自然再生協議会全体会（2回/年）				
		実績 4	2	2	4								
活動指標	自然再生活動数（部会開催数）	(目標) (27)	(27)	(27)	(27)	(27)			三方五湖 18回（各6部会×3回/年）開催 北潟湖 9回（各3部会×3回/年）開催				
		実績 28	38	26	25								
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和4年度の変更点				事業評価					
自然再生活動数は25回実施したことから概ね活動目標は達成した。 協議会開催は4回実施したことから成果指標は達成できた。 成果指標は、新型コロナ拡大防止により開催を控えたことから例年より少ない回数となった。								<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額		
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了			
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

SATOYAMAイニシアティブ推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	榎 厚生			
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 8 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度			
事業実施方法	直営														
補助率	—														
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [4 安心を高める (地域力)] 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]				関連する県の計画等		[環境基本計画]								
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]									
SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークでの会員間の交流の伸び悩み。						令和3年6月に行った会員団体対象のアンケートにおいて、回答のあった32団体中10団体から「ネットワークは、会員間の交流・連携・情報交換の役割を果たせていない」と回答を得た。									
[事業目的]															
福井・石川両県知事の共同代表のもと平成25年9月に発足した「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」を「SATOYAMAイニシアティブ」の理念を国内で共有するプラットフォームとして位置付け、SATOYAMAにおける生物多様性の保全や利活用を「国民的運動」へと展開する。															
[事業内容]															
①～③を通し、県内と他県の子どもたちの間で、「里遊び」を軸にした相互交流、ネットワークを構成する自治体の教員や里山里海湖研究所の活用を促進する。															
①国内におけるSATOYAMAイニシアティブの普及啓発 ・都市圏における参加団体共同による活動の発信 ・先進的な活動事例の認定や表彰制度の構築															
②里山等地域の保全や利活用に関する成果の情報発信 ・参加団体の情報発信や集いの場としてシンポジウムの開催および情報誌の発行															
③SATOYAMAづくりに関する対話と実践 ・参加団体の課題やニーズに応じたワーキンググループ等の開催 ・活動の裾野拡大や質的向上を図るための有効な方策の検討															
[受益者] SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク会員						[想定される受益者数]									
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)								
市町との連携状況						他県の状況	石川県と福井県が共同でSATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークを運営。								

SATOYAMAイニシアティブ推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	榎 厚生	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 8 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	335			(繰入) 335	0	自然保護基金						
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	令和4年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移	707	366	365	365	335	・東京都内での会場使用料の減						
2月現計予算額の推移	707	366	0	365								
決算額の推移	262	220	0									
前年度までの 主な増減理由	・令和元年度は、勉強会の開催を参加団体の持ち回りで実施することとなったことに伴い予算が縮小											
[成果指標等の推移]												
区 分	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク参加団体数 (目標)	(111)	(117)	(120)	(122)	(124)	(128)	(138)	新規登録団体 2団体/年			
	実績	115	118	116	117							
活動指標	セミナーの開催 (目標)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)			参加団体の勉強会を開催			
	実績	2	1	0	0							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和4年度の変更点				事業評価				
<ul style="list-style-type: none"> ・幹事会開催 第14回 令和3年10月(オンライン) 第15回 令和4年3月(オンライン) ・定期総会 令和3年10月(オンライン) ・環境フェアへの出展 ふるさと環境フェア 令和3年11月 福井県, エコプロ2021 令和3年12月 東京都 ・参加団体数が目標の122に届かなかったことから、成果指標は達成できなかった。理由としては、コロナ禍により県をまたいだ現地交流を自粛したためと考えられる。セミナー(エクスカーション、交流会)についても、コロナ禍により参加者が県をまたいだ移動を伴うこととなるため、コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見送った。 				<ul style="list-style-type: none"> ・環境フェアへの出展 ・交流会の開催 ・オンラインを活用した会員間の情報共有の強化(年1回の活動報告の共有、イベント情報の定期的な共有) ・目標を達成できなかった原因は、普及啓発と交流の機会の減少と考えられることから、上記の活動を行う。 セミナーについては、今後もコロナ禍が続くことも予想されるため、オンライン等を活用した開催方法を検討したい。 				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	30	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

「残そう・伝えよう！」生きもの保全事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	榎 厚生							
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務	事業 区分	□ 実行予算	事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 8 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度							
事業実施方法	補助金																		
補助率	10/10																		
福井県長期ビジョン における位置付け	分 野 [4 安心を高める(地域力)] 政 策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]				関連する県の計画等		[環境基本計画]												
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]													
自然再生団体の活動がなくなることで、絶滅の恐れが高まる種が増え、子どもたちが、地域の生きものや自然環境について学ぶ機会が減る。						大野市のクロシジミ(チョウ)や、美浜町のヒラサナエ(トンボ)は、県内唯一の生息地において活動していた自然再生団体の活動が無くなり、絶滅の危機に瀕している。													
[事業目的]																			
地域と小学校が共働し、地域の身近な自然環境の保全・再生を行うため、子どもたちが地域の自然再生団体とともに継続的に身近な生きものの調査・保全活動を行う。																			
[事業内容]																			
(1) 調査対象および内容 地域の宝となる希少な生物(県絶滅危惧種)を含む生き物の調査と保全について、地元の自然再生団体の協力を得なければ継続的に実施することが困難な活動を対象 (例) シャープゲンゴロウモドキ(昆虫)、ミチノクフクジュソウ(植物)、タマシギ(野鳥)など																			
(2) 支援内容 ○補助対象 自然再生団体 10団体 ○補助内容 ・身近な生き物調査と保全活動および小学校での観察会の開催経費 ・生きもの観察調査資機材への助成 ・生き物の生息環境整備に必要な資機材																			
[受益者] 県内小学校児童						[想定される受益者数] 年間800人													
前事業の有無・実績	□ 無 ■ 有 事業名 身近な生きもの生息環境調査事業 (実績) 県内7ブロックごとに、身近な生きもの調査をするモデル校を指定し、トンボ、メダカ、積雪量の共通調査と学校独自の学校別調査を実施。 県内8小学校(302人)が参加。					関連事業の有無・役割分担		□ 無 ■ 有 事業名 自然再生ふくい行動推進事業 (役割分担) 地域、団体、学校、企業等が行う里地里山の保全活動、自然環境保全活動、生き物調査などの技術的な指導や助言を行うため、専門家を派遣し、活動をサポートしている。											
市町との連携状況	・市町教育委員会との連絡					他県の状況													

「残そう・伝えよう！」生きものの保全事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	榊 厚生	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	<input type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	H27 年度 経過年数 8 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R4 年度
事業実施方法	補助金											
補助率	10/10											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	2,000			(繰入) 2,000	0	環境保全基金						
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	令和4年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000							
2月現計予算額の推移	2,000	2,000	2,000	2,000								
決算額の推移	1,589	1,989	649									
前年度までの 主な増減理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ H27→H28：実施校の拡大（14から21校）による増 ・ H29～：調査票作成に係る委託料の減 ・ H30：講師の派遣費用を別事業と統合し、予算を縮減 											
[成果指標等の推移]												
区 分	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	参加児童数	(目標) (350) 実績 595	(350) 780	(350) 240	(350) (10)	(350) (10)						
活動指標	支援団体数	(目標) (10) 実績 10	(10) 11	(10) 5	(10) 9							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和4年度の変更点				事業評価				
成果目標、活動目標ともに、達成できなかった。 達成できなかった理由としては、コロナ禍において、自然再生団体、学校ともに、活動を自粛したり、外部団体との接触機会を減らしたりしたためと考えられる。				目標が達成できなかったのは、コロナ禍による活動縮小が原因であるため、感染症対策に悩む自然再生団体に、他団体の事例を踏まえ、適切なアドバイスを行う。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

三方湖のヒシ対策事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	榎 厚生			
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H30 年度 経過年数 5 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度			
事業実施方法	直営														
補助率	—														
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [4 安心を高める(地域力)] 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]				関連する県の計画等		[環境基本計画]								
[解決すべき問題・課題] 三方五湖の最上流部に位置する三方湖において、近年、湖面をほぼ埋め尽くすほどにヒシの分布が拡大している。三方湖のヒシ発生に伴い、漁業のための航路阻害や湖辺に堆積するヒシの枯死体から発せられる悪臭などの社会的問題、ヒシの群落内における水中の貧酸素化による生態系の悪影響、湖景観への悪化を解消することが必要である。						[問題・課題を表す客観的データ] 三方湖におけるヒシの専有割合 2017年 73.4%、2018年 40.2%、2019年 42.8%、2020年 0.1%									
[事業目的] 三方湖のヒシの低密度管理につなげるため、強度のヒシ刈取りを実施する。															
[事業内容] ①ワイヤー刈取り ・実施時期：5～7月 ・ヒシの葉が湖面を覆う前に発芽区域全体を刈取る。 ・漁船に装着したワイヤーを引きながら、水深1～2mで葉が水面に出てくる前の若いヒシの茎を刈取る。 ②ヒシの回収 ・刈取りしたヒシのうち、漂流し漁業等に支障をもたらすヒシは回収し、陸揚げして処分する。															
[受益者] 県民						[想定される受益者数]									
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 (実績) —	事業名				関連事業の有無・ 役割分担		□ 無 ■ 有 事業名 三方五湖・北潟湖自然再生事業 (役割分担) ヒシの適正管理を行う手法開発として、平成25年から平成27年において、ヒシ刈取り専用船によるヒシ刈り実施試験の成果として「ヒシ対策ガイドライン」を作成。平成28年度からは、ワイヤー刈りによる低コストで効果的な管理手法の実証研究を実施。							
市町との連携状況	—					他県の状況		○諏訪湖に係る第6期水質保全計画(平成24年度から平成28年度) 「水草刈取船による諏訪湖のヒシ除去工事の実施(H25～長野県諏訪建設事務所)」 ○印旛沼に係る湖沼水質保全計画(第7期 平成28年～32年) 「印旛沼におけるオニビシの刈取り実施」							

三方湖のヒシ対策事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	榊 厚生	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H30 年度 経過年数 5 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R4 年度
事業実施方法	直営											
補助率	-											
区分	事業費	国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等				
予算額	10,916	8,187				2,729	電源交付金					
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区分		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	令和4年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		18,052	14,830	12,400	10,964	10,916						
2月現計予算額の推移		18,052	14,830	10,766	10,964							
決算額の推移		17,997	14,789	10,192								
前年度までの主な増減理由		・ (H30-R1) 機械による刈取りを行わないことに伴い予算額が縮小										
[成果指標等の推移]												
区分		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	ヒシ繁茂面積 (ha)	(目標) (34)	(34)	(34)	(34)	(34)			三方湖ヒシ対策ガイドライン（三方五湖自然再生協議会外来生物等対策部会）のゾーニング計画に沿って平成18年～28年までのヒシの最小繁茂面積（34ha）程度を保全する。			
		実績	153	0.4								
活動指標	ヒシ刈取り面積 (ha)	(目標) (240)	(240)	(240)	(240)	(240)			平成18年～28年までの最大繁茂面積（271ha）と最小繁茂面積（34ha）の差となる240haのヒシを最大の目安として毎年刈り取る。			
		実績	200	129	109							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和4年度の変更点				事業評価				
刈取面積は減少してきており、ヒシの繁茂を抑え込みつつある。繁茂具合は湖の塩分濃度にも影響する意見もあり、継続したモニタリングが必要。				可能な限り多くの面積を刈り取り、以後の低密度管理に近づける。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	48	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

実学研究の推進

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	榎 厚生			
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度			
事業実施方法	直営														
補助率	—														
福井県長期ビジョン における位置付け	分 野 [4 安心を高める(地域力)] 政 策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]				関連する県の計画等		[環境基本計画]								
[解決すべき問題・課題] 里山里海湖の資源を守るためには、専門的な学問や科学の支えが重要であり、里山里海湖の恵みを人々の暮らしに結びつける様々な研究が必要である。						[問題・課題を表す客観的データ] 里山里海湖の恵みを暮らしに結びつける研究者数 4人									
[事業目的] 年縞や豊かな自然環境など、本県が誇るべき里山里海湖による恵みの価値を再認識し、生物多様性の確保と福井の豊かな暮らしの承継につなげるため、里山里海湖の恵みを人々の暮らしに結びつける工夫を研究する。															
[事業内容] 4名の研究者が、以下の分野において、里山里海湖の恵みを人々の暮らしに結びつける工夫を研究する。 <div style="display: flex; flex-direction: column;"> <div style="margin-bottom: 5px;">【環境考古】 山崎 彬輝 . . . 年縞を基に、自然、歴史をひも解き、自然と人の暮らしとの関わりを明らかにする研究を推進</div> <div style="margin-bottom: 5px;">【保全生態】 石井 潤 . . . 里山、里海湖の生物多様性の保全・再生および生態系サービスの分析評価に関する研究</div> <div style="margin-bottom: 5px;">【森里川海連環】 宮本 康 . . . 里海湖の原風景と利活用の歴史を明らかにし、保全・再生活動に結び付けるための研究</div> <div style="margin-bottom: 5px;">【里地里山文化】 樋口 潤一 . . . 里に伝わる伝統(農法、漁法等)、文化、習俗等の資料を収集、活用して、県民の生活や里山里海湖の資源を生かした経済活動につなげる研究</div> </div>															
[受益者]						[想定される受益者数]									
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績) これまでの研究成果についての県民および各地域への発表会の実施および、地域における協議会等への参加などを通じて、研究成果の地域への還元に取り組んでいる。 30年度より、研究員が開発した効率的なヒシ刈り手法により三方湖でヒシ刈りを実施。					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担) -								
市町との連携状況	研究の実施において、市町関係施設等との連携を図っている。					他県の状況	県レベルでの里山里海湖に関する研究を行う組織は他県にはない。								

実学研究の推進

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	榊 厚生	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R1 年度	事業終了予定年度(見直し年度)	R5 年度
事業実施方法	直営									R1 年度		
補助率	-									経過年数		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	6,615	240		(繰入) 6,375	0	科学研究費補助金、自然保護基金						
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区分	分	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	令和4年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		7,808	8,095	8,000	8,000	6,615	・必要経費の見直し					
2月現計予算額の推移		4,445	7,065	6,603	6,080							
決算額の推移		4,029	6,275	5,777								
前年度までの主な増減理由	・H30 研究員2名欠員により、2補で減額											
[成果指標等の推移]												
区分	分	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	(目標) 実績								5年間の研究期間の途中年度毎に研究成果を数値化することは困難			
活動指標	研究テーマ数 (目標) 実績	(4) 2	(4) 4	(4) 4	(4) 4	(4) 4	(4)	(4)	各研究員が研究項目ごとに研究を行う			
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和4年度の変更点				事業評価				
研究成果に基づく自然再生事業実施件数 4件 ・三方湖のヒシ刈取事業(県事業)1件 ・伝統知を活かしたなぎさの再生事業(県事業2件、美浜町事業1件)3件								<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	1,385	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

里山文化体験講座

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	榎 厚生			
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H26 年度 経過年数 9 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度			
事業実施方法	直営														
補助率	—														
福井県長期ビジョン における位置付け	分 野 [4 安心を高める(地域力)] 政 策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]				関連する県の計画等		[環境基本計画、里山里海湖研究所中期計画]								
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]									
地域のお年寄りの知識や技術を活かしながら、里山里海湖の魅力や大切さを幅広い世代に伝えることが必要である。						長期ビジョンアンケート 問20「将来の福井県で今より悪くなると心配すること」 ・人口減少と多くの集落がなくなること(1位)、高齢者の生活不安(3位)、地域コミュニ ティーが希薄(4位)など、里山地域に特徴的な事項について衰退することが心配。									
[事業目的]															
里山里海湖研究所の来所者に対し、地域のお年寄り(ふるさと研究員)や里山里海湖相談員を講師に、里山里海湖の伝統的な人の営みを題材とした気軽な体験メニューや周辺の自然環境を活かした体験メニューを提供し、里山里海湖の魅力を幅広い世代に伝える。															
[事業内容]															
(1) 里山里海湖研究所自然観察棟において、来所者が気軽に体験できるメニューを提供 ○体験メニュー 松ぼっくりアート、どんぐりアートなどの工作 野鳥観察、研究内容の紹介 等 ○指導者 里山里海湖相談員															
(2) 時節に応じた自然体験企画を開催 自然観察棟周辺の自然環境を活かした植樹や生き物観察など、来所者が縄文ロマンパーク一帯で里山文化を体感できる企画を実施する。 ○開催日 年4回(四半期に1回) ○場 所 里山里海湖研究所自然観察棟および縄文ロマンパーク周辺															
[受益者] 県民						[想定される受益者数]									
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)							
市町との連携状況						他県の状況									

里山文化体験講座

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	榊 厚生	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H26 年度 経過年数 9 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R4 年度
事業実施方法	直営											
補助率	-											
区分	事業費	国庫	起債	その他		一般財源	国庫、その他財源の名称等					
予算額	476			(繰入)	476	0	自然保護基金					
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区分		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	令和4年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		1,379	987	476	476	476						
2月現計予算額の推移		809	987	476	476							
決算額の推移		650	724	444								
前年度までの主な増減理由		(29→30)年2回の特別企画を開催するため増額 (30→31)シルバー人材センター委託業務を削減 (R1→R2)開催回数の減										
[成果指標等の推移]												
区分		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	来所者数 (目標)	(15,000)	(15,000)	(15,000)	(15,000)	(15,000)	(20,000)	(30,000)	展示・体験メニューの充実を図り、来所者数の増加を目指す			
	実績	20,044	30,946	11,118								
活動指標	時節に応じた企画イベント数 (目標)	(2)	(12)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	四半期に1回			
	実績	6	11	5								
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和4年度の変更点				事業評価				
・経費がかからないように工夫し、企画イベントを目標を超えて開催することができた。 ・新型コロナウイルスの影響により、来所者数が大幅に減少した。また、日常の工作体験を予約制としたため、体験者数も減っている。				・感染症拡大状況をみながら、より多くの人に来所者体験していただけるようにする。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

福井ふるさと学びの森 がんばる里山里海湖応援プロジェクト

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	榊 厚生			
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度			
事業実施方法	直営														
補助率	—														
福井県長期ビジョン における位置付け	分 野 [4 安心を高める (地域力)] 政 策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]				関連する県の計画等		[環境基本計画、里山里海湖研究所中期計画]								
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]									
里山や里海湖を使った気軽な自然体験の中で環境教育を推進するため、民間団体等が主体となって質の高い体験サービスを提供できるようにする必要がある。						学びの森・海湖登録団体（公共的団体5団体を除く）のうち、 ・活動を生業としている団体数 9団体／29団体 ・生業ではないが精力的に活動している団体数 11団体／29団体									
[事業目的]															
福井ふるさと学びの森・海湖における体験活動をとおして、人の暮らしと里山・里海湖との関わりや森と海湖のつながりを学ぶ機会を提供し、県民の里山里海湖保全の意識醸成につなげる。															
[事業内容]															
<p>福井ふるさと学びの森・海湖ネットワーク事業</p> <p>福井ふるさと学びの森・海湖登録団体の活動内容のレベルアップを図り、県内外での集客力を高めることで、森と海湖のつながりを学べる環境づくりを推進する。</p> <p>①先進的、挑戦的な活動への支援 学びの森登録団体または新規に学びの森への登録を目指す団体が、先進的、挑戦的な活動を実施するに当たり、その必要経費を支援する。 ○補助件数 5件（定額補助、上限200,000円/件） ○補助対象 ・新しい体験プログラムの開発に要する経費（活動意欲の継続・参加者の満足度向上）</p> <p>②県内外への情報発信：ア 県外向け広報 イ 県内向け広報</p> <p>③安全性の向上のための合同研修会兼情報交換会を開催：学びの森・海湖団体で合同開催（1回）</p>															
[受益者] 県民						[想定される受益者数]									
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 「福井ふるさと学びの森」事業、NW事業 (実績) (1) 県直営の学びの森3か所（若狭町、あわら市、奥越）を運営（奥越は自然保護センターと共催）し、一般県民を対象とした年間体験プログラムを実施 (2) 学びの森登録団体への支援					関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)							
市町との連携状況						他県の状況									

福井ふるさと学びの森 がんばる里山里海湖応援プロジェクト

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	榎 厚生	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業開始年度	R1 年度	事業終了予定年度(見直し年度)	R4 年度
事業実施方法	直営									R1 年度		
補助率	-									経過年数		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	2,236			(繰入) 2,236	0	環境保全基金						
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	令和4年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移	5,159	5,129	4,147	3,850	2,236	若狭エリアの直営を廃止						
2月現計予算額の推移	5,159	5,129	3,352	3,390								
決算額の推移	4,912	4,799	3,116									
前年度までの主な増減理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ (R1) 先進的、挑戦的な活動を行う団体への補助支援を追加(県内広報誌への広告費を追加) ・ (R2) 資機材貸出に係る事業を別事業として計上(※30年度は前事業の額を記載) ・ (R3) あわらエリアの直営を廃止、登録団体の支援を強化 											
[成果指標等の推移]												
区 分	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	森団体と海湖団体の連携企画数	(目標) (1) (実績) 1	(1) (0)	(1) (0)	(1) (0)	(3)	(5)	1回				
活動指標	ネットワーク事業開催回数	(目標) (1) (実績) 1	(2) (2)	(1) (0)	(1) (1)	(1)	(5)	森、海湖合同で1回				
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和4年度の変更点				事業評価				
・ 森と海湖団体の連携事業への助成案件がなかった。年間計画を立てる春先に感染症が拡大し、連携が難しかったことが1つの理由と推測している。 ・ 感染症拡大防止のため、各団体が集合して行うネットワーク事業をオンラインも活用しながら開催した。				森と海湖団体が連携することで、お互いに活動の幅が広がるため、年度当初から各団体に早めに働きかけていく。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	1,614	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

里山保全活動用資機材貸出事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	榊 厚生			
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R2 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度			
事業実施方法	直営														
補助率	—														
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [4 安心を高める (地域力)] 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]				関連する県の計画等		[環境基本計画、里山里海湖研究所中期計画]								
[解決すべき問題・課題] 里山の利活用が減り、「里山の奥山化」が進行し、獣害発生の一因となっているため、少人数、高齢者でも取り扱いの可能な里山整備資機材の利用普及により、適正な里山管理の支援が必要である。						[問題・課題を表す客観的データ] ウッドチップパー、薪割機、炭化炉 延べ機材貸出し回数 (利用者数) H30 73回貸出し (40団体・個人) H31 64回 (39団体・個人) R 2 70回貸出し (47団体・個人)									
[事業目的] 人の手が入らなくなり荒廃が進む里山の保全・再生および資源利用の推進のため、県内の里山の保全・再生活動に取り組んでいる方を対象に、里山保全活動用資機材の貸出しを行っている。ニーズの高い資機材のうち、耐用年数を向かえた一部を更新し、里山保全活動者の利便性を向上させ、県内の里山の保全・再生を促進する。															
[事業内容] (1) 県内3地区で貸出業務を実施 ○貸出拠点 3ヶ所 (福井地区、丹南地区、嶺南地区) で貸出 ・福井地区、丹南地区は委託により実施、嶺南地区は直営で実施 ○貸出資機材 (現状) 福井地区 ウッドチップパー 2 台、薪割機 2 台、炭化炉 4 台 丹南地区 " 1 台、 " 1 台 嶺南地区 " 1 台、 " 1 台、炭化炉 2 台															
[受益者] 県民						[想定される受益者数] -									
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 森と海湖のつながり体感事業 (実績) 資機材貸出件数 (H30) ウッドチップパー (4 台) 47回 薪割り機 (4 台) 25回					関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)							
市町との連携状況						他県の状況									

里山保全活動用資機材貸出事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	榎 厚生		
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R2 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R4 年度	
事業実施方法	直営									R2 年度			経過年数
補助率	-									3 年			
区分	事業費	国庫	起債	その他		一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	1,446			(繰入)	1,446	0	環境保護基金						
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区分		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	令和4年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移		-	-	1,366	2,888	1,446							
2月現計予算額の推移		-	-	1,366	2,300								
決算額の推移		-	-	1,366									
前年度までの主な増減理由		<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度（令和元年度）以前は、「森と海湖のつながり体感事業」のうちの貸出に係る予算を計上 ・令和2年度は、丹南地区の貸出拠点を追加 ・令和3年度は、貸出し資機材の一部を更新 											
[成果指標等の推移]													
区分		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	貸出回数 (目標) 実績	(60) 73	(60) 64	(60) 70	(60) (60)	(60) (60)	(80)	(100)	ウッドチップパー、薪割り機、炭化炉の貸出が毎月5回				
活動指標	貸出し拠点数 (目標) 実績	(2) 2	(2) 2	(3) 3	(3) (3)	(3) (3)	(3)	(3)					
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和4年度の変更点				事業評価					
令和2年度から貸出拠点を増やし、嶺北地区の借り受け希望者の利便性を向上させることができた。制度の周知を図り、利用者層の拡大を図る必要がある。				研究所のイベントやフォーラム等で貸出し制度の周知を図る。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額		
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	1,442		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

星空に配慮した六呂師県有施設屋外照明改修事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	榎 厚生																														
事業主体	県、市町				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R4 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度																														
事業実施方法	直営																																									
補助率	-																																									
福井県長期ビジョン における位置付け	分野	[4 安心を高める(地域力)]				関連する県の計画等		[環境基本計画]																																		
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]																																				
星空日本一と言われる六呂師高原の星空ブランドを高め、星空保護区及び地域活性化に県として寄与するため、県有施設の屋外照明改修が必要である。						夏の星空観察(環境省) 観察場所: 福井県自然保護センター 星の明るさ R2 21.4等級(参考 北海道陸別 22.18等級)																																				
[事業目的]																																										
星空日本一と言われる大野市の六呂師高原の魅力を高めるため、県有施設の屋外照明に関して上方への光の漏れをなくし、また、照明の色温度を下げる改修を行うことで、光害の抑止を図るとともに、大野市による星空保護区認定に寄与し、もって、六呂師高原の活性化に貢献する。																																										
[事業内容]																																										
自然保護センターおよび六呂師ウォーキングセンターの屋外照明について、星空に配慮した照明とするため、上方へ光が漏れないようにし、また照明光の色温度を抑えるための改修等を行う。																																										
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 20%;">自然保護センター</td> <td style="width: 10%;">:</td> <td style="width: 10%;">(箇所数)</td> <td style="width: 10%;">55 箇所</td> <td style="width: 10%;">(主な改修内容)</td> <td>駐車場街路灯、シーリングライト、スポットライト、ウォールライト、足元灯</td> </tr> <tr> <td>六呂師ウォーキングセンター</td> <td>:</td> <td>(箇所数)</td> <td>2 箇所</td> <td>(主な改修内容)</td> <td>シーリングライト、スポットライト</td> </tr> <tr> <td>奥越高原青少年自然の家</td> <td>:</td> <td>(箇所数)</td> <td>52 箇所</td> <td>(主な改修内容)</td> <td>駐車場街路灯、シーリングライト、スポットライト</td> </tr> <tr> <td>キャンプ場</td> <td>:</td> <td>(箇所数)</td> <td>33 箇所</td> <td>(主な改修内容)</td> <td>シーリングライト、ベースライト</td> </tr> <tr> <td>ミルク工房奥越前</td> <td>:</td> <td>(箇所数)</td> <td>8 箇所</td> <td>(主な改修内容)</td> <td>モールライト、シーリングライト</td> </tr> </table>													自然保護センター	:	(箇所数)	55 箇所	(主な改修内容)	駐車場街路灯、シーリングライト、スポットライト、ウォールライト、足元灯	六呂師ウォーキングセンター	:	(箇所数)	2 箇所	(主な改修内容)	シーリングライト、スポットライト	奥越高原青少年自然の家	:	(箇所数)	52 箇所	(主な改修内容)	駐車場街路灯、シーリングライト、スポットライト	キャンプ場	:	(箇所数)	33 箇所	(主な改修内容)	シーリングライト、ベースライト	ミルク工房奥越前	:	(箇所数)	8 箇所	(主な改修内容)	モールライト、シーリングライト
自然保護センター	:	(箇所数)	55 箇所	(主な改修内容)	駐車場街路灯、シーリングライト、スポットライト、ウォールライト、足元灯																																					
六呂師ウォーキングセンター	:	(箇所数)	2 箇所	(主な改修内容)	シーリングライト、スポットライト																																					
奥越高原青少年自然の家	:	(箇所数)	52 箇所	(主な改修内容)	駐車場街路灯、シーリングライト、スポットライト																																					
キャンプ場	:	(箇所数)	33 箇所	(主な改修内容)	シーリングライト、ベースライト																																					
ミルク工房奥越前	:	(箇所数)	8 箇所	(主な改修内容)	モールライト、シーリングライト																																					
[受益者] 県民						[想定される受益者数]																																				
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)																																		
市町との連携状況	大野市は星空保護区として、南六呂師で人が住む地域の近くで美しい星空が観測できる「アーバン・ナイトスカイプレイス部門」に令和5年度内の認定を目指しており、大野市においてもR3~R4にかけ市有施設の照明改修が行われている。					他県の状況																																				

星空に配慮した六呂師県有施設屋外照明改修事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	榊 厚生				
事業主体	県、市町				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務		事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他		事業 開始 年度	R4 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度	
事業実施方法	直営											経過年数			1 年
補助率	-														
区分	事業費		国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等							
予算額	30,178			30,000		178									
[予算額の推移等] (単位：千円)															
区 分		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	令和4年度予算額の増減理由								
当初予算額の推移		-	-	-	-	30,178									
2月現計予算額の推移		-	-	-	-										
決算額の推移		-	-	-	-										
前年度までの 主な増減理由															
[成果指標等の推移]															
区 分		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠						
成果指標	星空観察会回数（自然保護センター） (目標) 実績	-	-	-	-	(250)			天体講座・観察会（自然保護センター）回数 250回						
活動指標	屋外照明改修箇所数（自然保護センター、六呂師ウォーキングセンター） (目標) 実績	-	-	-	-	150か所			屋外照明改修箇所数（自然保護センター55か所、六呂師ウォーキングセンター2か所、奥越高原青少年自然の家・キャンプ場85か所、ミルク工房奥越前8か所）						
[事業の評価]															
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和4年度の変更点				事業評価							
								<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額				
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了					
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他					

年縞博物館特別展開催事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	榎 厚生			
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度			
事業実施方法	直営														
補助率	—														
福井県長期ビジョン における位置付け	分 野 [4 安心を高める(地域力)] 政 策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]				関連する県の計画等		[環境基本計画]								
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]									
新型コロナウイルス感染拡大の影響から来館者数が減少しており、来館者数の回復・増加を図る必要がある						年縞博物館の来館者数 来館者数：令和元年度55,232人、令和2年度42,568人									
[事業目的] 水月湖年縞および平成30年9月にオープンした年縞博物館の認知度を高め、また、年縞研究の重要性について理解を深めてもらうため、特別展を開催し、年縞博物館への誘客を図る。															
[事業内容] 概要：水月湖年縞の研究は7万年分の年縞を欠けることなく掘削できたことにより進められ、世界に認められた。この年縞研究の根幹にもなった「掘削技術」は、古代から技術者や研究者が様々な目的に応じて創り出したものである。令和4年度の特別展では年縞掘削技術をはじめ、古代から現代の様々な掘削の技術や道具を紹介する。 テーマ：特別展「掘る！ 人類は穴の先に何を見るのか？」(仮) 時期：令和4年8月3日～10月3日 61日間(仮) 展示構成：①年縞調査のための穴掘り ②歴史を知るための穴掘り ③食料・水のための穴掘り ④財宝を求めての穴掘り ⑤移動手段の穴掘り(新北陸トンネル) 記念講演：特別展開期中に実施 ○題目 「水月湖年縞の穴掘り技術」(仮) ○講師 中川 毅 教授(立命館大学古気候学研究センター長) ○日時 令和4年8月中旬 ○場所 若狭町内 ○人数 80人															
[受益者] 来館者						[想定される受益者数] 10,000人									
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 年縞博物館開館記念事業 (実績) 平成30年9月に年縞博物館が開館するに当たり、世界の年縞の研究・教育の拠点として、年縞の魅力を県内外に発信するため、特別企画展を開催					関連事業の有無・役割分担		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 資料収集事業 (役割分担) 収集した資料等を特別展等で公開							
市町との連携状況	若狭三方縄文博物館との合同特別展の開催					他県の状況									

年縞博物館特別展開催事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	榊 厚生	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業終了予定年度 (見直し年度)	
事業実施方法	直営					□ 法定受託事務			□ 補助金			R1 年度
補助率	-								□ その他			経過年数 4 年
区分	事業費	国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等				
予算額	3,746	1,842		諸収入	61	1,843	地方創生交付金、図録売上					
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区分		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	令和4年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		-	4,793	3,855	3,983	3,746						
2月現計予算額の推移		-	4,793	1,655	3,649							
決算額の推移		-	4,767	1,619								
前年度までの主な増減理由												
[成果指標等の推移]												
区分		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	特別展開催期間中の来館者数	(目標)	(8,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)				
		実績	15,311	16,472	12,310							
活動指標	特別展開催件数	(目標)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)				
		実績	1	1	1							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和4年度の変更点				事業評価				
新型コロナの影響により、11/1まで期間を延長した。 マヤ文明の遺跡で発見された年縞を世界初公開し、気候変動やマヤ文明の衰退に迫ることをテーマとした魅力ある展示により、成果指標、活動指標ともに達成した。				年縞研究の原点ともいえる掘削（穴掘り）に焦点をあて、人類にとっての穴掘りの価値や意義について紹介				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

年縞博物館魅力向上事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	榊 厚生			
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度			
事業実施方法	直営														
補助率	—														
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [4 安心を高める (地域力)] 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]				関連する県の計画等		[環境基本計画]								
[解決すべき問題・課題] 第2回博物館協会賞を受賞を契機に国内外に魅力を発信する必要がある						[問題・課題を表す客観的データ] 全国約5700の博物館等の中から唯一、第2回博物館協会賞を受賞したが、新型コロナウイルスの感染拡大等の影響もあり、年々来館者が減少している。 来館者数：令和元年度55,232人、令和2年度42,568人									
[事業目的] 年縞研究・教育・観光の拠点である年縞博物館において、研究を推進し研究成果を普及啓発することで、年縞博物館の魅力を高め、北陸新幹線福井・敦賀開業を見据えた来館者の増加を図る。															
[事業内容] (1) 年縞研究の推進 立命館大学の協力のもと、年縞研究を最前線で行っている海外研究者と最新の研究成果や今後の研究の方向性等を検討するWeb会議を開催するとともに、海外の大学等で年縞や年縞博物館についての情報を発信 (2) (拡) 年縞教育・普及の推進 ア サイエンスカフェ等の開催 水月湖年縞の研究に関連する各分野の専門家を招き、県民が年縞研究の見識を深める「サイエンスカフェ」等を実施し、年縞の魅力を発信する人材を育成 イ 琵琶湖博物館と連携した展示・講座 令和2年度開催の福井県・滋賀県知事懇談会の合意事項に基づき、①両博物館で互いの所蔵品を展示・紹介 ②学芸員を相互に派遣して講座等を開催 ウ (新) 水月湖年縞の教材作成 水月湖年縞の学術的価値について、小学生から高校生まで分かりやすく伝えるための教材を作成 (3) (新) 国際的な場等でのプレゼンテーションの実施 令和3年11月に国内で唯一「第2回日本博物館協会賞」を受賞したことから、日本代表の博物館として「全国博物館長会議」や「The Best in Heritage」でプレゼンテーションを実施する。 令和4年6月 全国博物館長会議(東京)…会議出席者に対しプレゼン 9月 The Best in Heritage(クロアチア)…世界約40か国の代表博物館が参加し、各館がプレゼン (4) (新) デジタルコンテンツの制作、活用 VR映像技術を用いた館内常設展示のデジタルコンテンツ化を行い、インターネット経由で閲覧可能な環境を構築する。															
[受益者] 来館者						[想定される受益者数] 60,000人									
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 年縞博物館特別展開催事業 (役割分担) 特別展を契機により多くの方に来館いただき、水月湖年縞の魅力を知ってもらう							
市町との連携状況						他県の状況									

年縞博物館魅力向上事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	榊 厚生	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R1 年度	事業終了予定年度(見直し年度)	R4 年度
事業実施方法	直営									R1 年度		
補助率	-									経過年数 4 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	4,734	2,367			2,367	地方創生交付金						
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区分		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	令和4年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		-	6,288	1,267	1,406	4,734	<ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行の誘致を強化するための水月湖年縞の教材作成 ・「The Best in Heritage」(クロアチア)等への参加 など 					
2月現計予算額の推移		-	6,288	1,267	950							
決算額の推移		-	5,734	1,072								
前年度までの主な増減理由	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度に年縞博物館ガイドブック(図録)および周辺施設と共同でPR動画を制作したため、令和2年度の事業費が減少した ・令和2年度以降、琵琶湖博物館と連携した展示・講座を実施するため、事業費が増加した ・令和3年度は観光関連企業等への営業ツール制作のため、事業費が増加した 											
[成果指標等の推移]												
区分		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	来館者数 (目標)	(30,000)	(60,000)	(60,000)	(60,000)	(60,000)	(60,000)	(60,000)	年縞博物館の来館者数			
	実績	30,818	55,232	42,568								
活動指標	研究会、サイエンスカフェの開催 (目標)	-	(7)	(6)	(4)	(4)	(4)	(4)	国際年縞研究会(1回)、サイエンスカフェ(5回→2回)、琵琶湖博物館連携事業(1回)			
	実績	-	6	6								
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和4年度の変更点				事業評価				
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、成果指標は達成できなかった。 サイエンスカフェ(5回)、琵琶湖博物館連携事業(1回)を実施したことから、活動指標は達成した。								■ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
								□ 継続	□ 休止	□ 完了		
								□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

海浜自然センター特別企画事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	榊 厚生							
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務	事業 区分	■ 実行予算	事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 8 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度							
事業実施方法	直営																		
補助率	—																		
福井県長期ビジョン における位置付け	分 野 [4 安心を高める(地域力)] 政 策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]				関連する県の計画等		[環境基本計画]												
[解決すべき問題・課題] 夏季においては特に、関西、中京方面からの来館者が増加傾向である。これらの利用者が年間を通して利用してもらえるような特別企画を開催し、福井の海湖に親しみ、環境保全や海産資源消費拡大をめざす。						[問題・課題を表す客観的データ] 夏季の県外来館者率 R1 66.9% R2 57.2% (コロナの影響により減少) R3 64.0%													
[事業目的] センターの活用や来館を促進するため、主催事業や出張講座、個人受入講座の内容を紹介するとともに、福井の海湖(うみ)に親しみ、環境保全意識の高揚や海産資源の消費拡大に向けた特別企画を開催する。																			
[事業内容] ①学ぼう！福井の海湖(うみ) イベント 5月7日(土)・5月8日(日) ・来館者に海岸清掃やゴミの回収・分別に協力してもらい、海湖をきれいにする事の大切さを感じてもらう。 ・回収した漂着物を使い、アート作品にリサイクルして環境保全意識を高める活動を行う。 ・磯観察や魚釣りをを行い、多様な福井の海の生きものを知ってもらう。 等 ②考えよう！福井の海湖(うみ) イベント 7月16日(土)・7月17日(日) ・乗船体験を行い、若狭湾の自然・景観に素晴らしさや養殖場を見学し、水産資源保護について学ぶ。 ・関係各機関に依頼し、海湖の資源保護や活用に関する講演会やクイズ大会を行う。 ・福井の海湖(うみ)に関連する資源を活用したクラフト講座を行う。 等																			
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 10,000人													
前事業の有無・実績		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)				関連事業の有無・役割分担		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 自然体験講座開催事業 (役割分担) 当センターの自然体験講座開催事業について紹介したり、参加の予約を受け付けたりするなど、講座参加率向上を図る。											
市町との連携状況		・県立大学、水産試験場、各地区教育委員会・小学校、各地区観光協会等との連携 ・若狭町ツーデーマーチ、若狭町ハート&アートフェスタへの参加協力 ・海岸清掃時のゴミ処理については、ボランティア活動として処理費用を免除(若狭町)				他県の状況		(1)福井県美浜町きいばす(年2回大型イベント開催、1回当たりの予算100万円程度、1回当たりの来館者約3,000人) (2)福井県敦賀市あっとほうむ(年8回大型イベント開催、1回当たりの予算100万円程度(広報は別予算)、1回当たりの来館者約10,000人) (3)福井県坂井市エンゼルランド(年4回大型イベント開催、1回当たりの予算400万円程度、1回当たりの来館者約5,000人) (4)石川県のとじま水族館(宿泊体験等の企画イベントを実施) ※どの施設もイベントを開催し、集客を図っている。											

海浜自然センター特別企画事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	榎 厚生	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H27 年度	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R4 年度
事業実施方法	直営								経過年数	8 年		
補助率	-											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	2,172			(繰入) 2,172	0	自然保護基金						
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	令和4年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移	2,626	2,488	2,437	2,172	2,172							
2月現計予算額の推移	2,626	2,488	1,000	2,172								
決算額の推移	2,619	2,488	996									
前年度までの主な増減理由												
[成果指標等の推移]												
区 分	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	来館者数 (目標)	(120,000)	(120,000)	(110,000)	(110,000)	(110,000)	(110,000)	(110,000)	GW明けに1回目のイベントを開催し、環境保全の啓発をする。夏休みの前に2回目のイベントを開催し、観察活動に最適な時期の参加者増を狙い、環境保全意識の高揚を図る。			
	実績	132,779	129,064	104,614								
活動指標	イベント来館者数 (目標)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	学ぼう！福井の海湖（うみ）（5,000人）、考えよう！福井の海湖（うみ）（5,000人）※過去の集客をもとに算出			
	実績	15,430	13,444	4,221	7,270							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和4年度の変更点				事業評価				
7月17.18日「とびだせ若狭の海湖」3,711人 10月9.10日「見つけよう若狭の海湖の宝もの」3,559人 体験プログラムの中に、海ごみや環境保全についての学習を組み入れた。新型コロナ対策で定員を減らすなどしているため、活動指標は減少している。								<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		